

記者発表資料

平成25年8月9日

平成25年8月4日降雨後の溶岩ドーム挙動観測結果について

平成25年8月4日、島原半島では時間雨量最大98mm、連続雨量最大221mmの降雨を確認致しました。(別紙1)(観測所:大野木場)

なお、今回の降雨による溶岩ドーム(別紙2)の急速な変位速度の上昇等の異常および土石流の発生(別紙3)は確認されませんでした。

今回の降雨量および降雨前後の溶岩ドームの観測結果については別紙のとおりです。

問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 雲仙復興事務所

(0957) 64-4171 (代表)

技術副所長 古賀 唯雄 (内204)

調査課長 目床 順司 (内351)

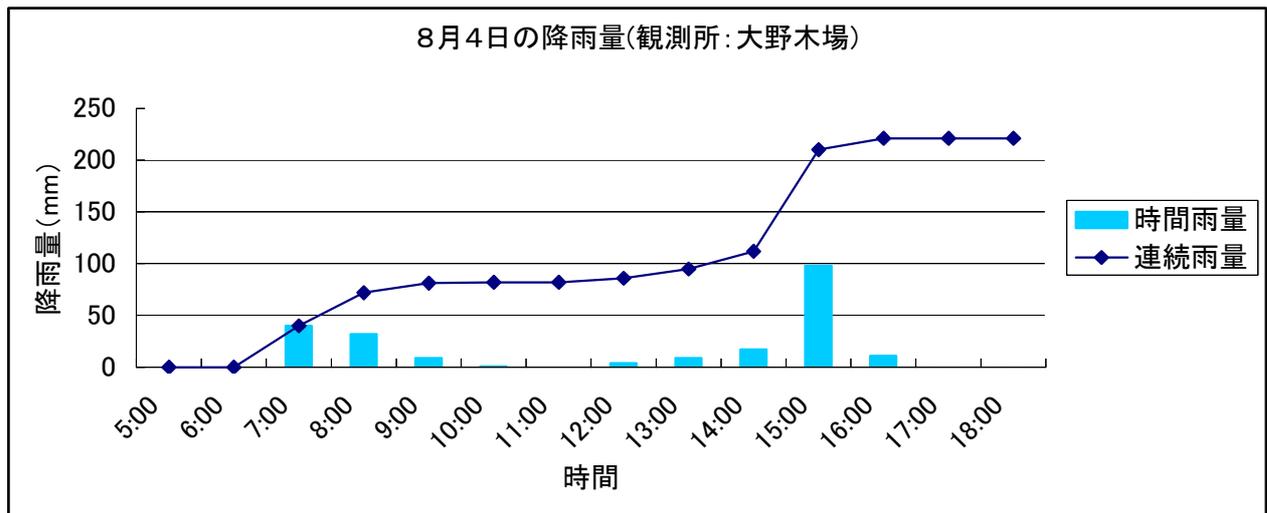
ホームページアドレス: <http://www.qsr.mlit.go.jp/unzen/>

平成25年8月4日降雨後の溶岩ドーム観測結果について

○降雨量

観測所：大野木場（国土交通省所管）（設置場所：南島原市深江町戊827-1）

平成25年8月4日の雨量は以下のとおりである。



- ・ 連続雨量：221mm（8月4日6時～8月4日16時までの10時間）
- ・ 最大時間雨量：98mm（8月4日14時～15時）

○溶岩ドームの観測結果について

平成25年4月1日～平成25年8月8日の期間における光波測距儀による溶岩ドームの観測結果は以下のとおりである。

観測結果より、今回の降雨前後で溶岩ドームの変位速度は変化していないため、特段の異常はみられない。



- ・ 気象等の影響により、データにばらつきがあるものの、8月4日の降雨前後で目立った変位速度の変化はみられない

※ 過去の実績（参考資料参照）では、連続雨量 200mm 以上の降雨が 1 週間以内に 2 度発生した場合は、溶岩ドームの変位速度の上昇が確認されているため、今後の降雨に注意が必要。

※ 溶岩ドームの挙動観測は、光波測距儀および地上型合成開口レーダーにより行っているが、地上型合成開口レーダーについては機器の不具合のため、データ未回収である。

現在修繕作業を行っているところであるが、復旧次第観測結果を確認し、溶岩ドームの変位に異常が確認された場合は別途発表する。

○監視カメラによる映像確認



監視カメラの設置位置



降雨前（平成25年8月2日17時30分）

赤松谷ガリカメラ映像

降雨後（平成25年8月5日8時30分）

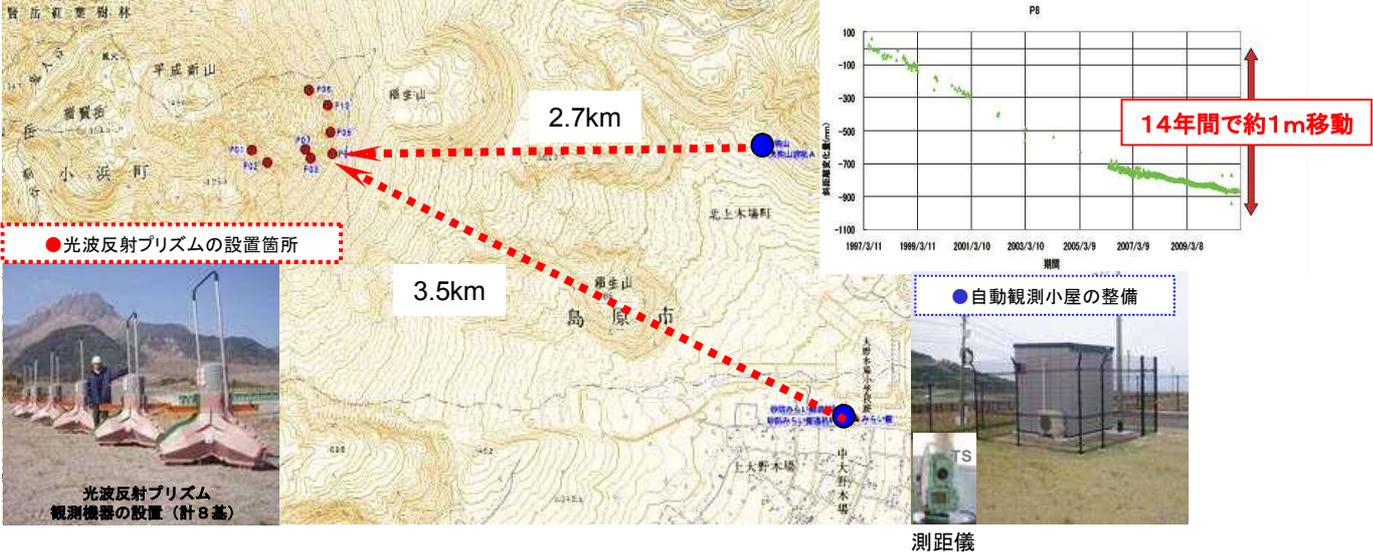
赤松谷ガリカメラ映像

- ・ 8月4日降雨後の赤松谷ガリカメラ映像より、上図の  部分の小規模な土砂移動は確認されたが、 のマーキング（現地に設置している）が移動していないことから、今回降雨で土石流は発生していないことを確認した。

溶岩ドーム挙動観測について

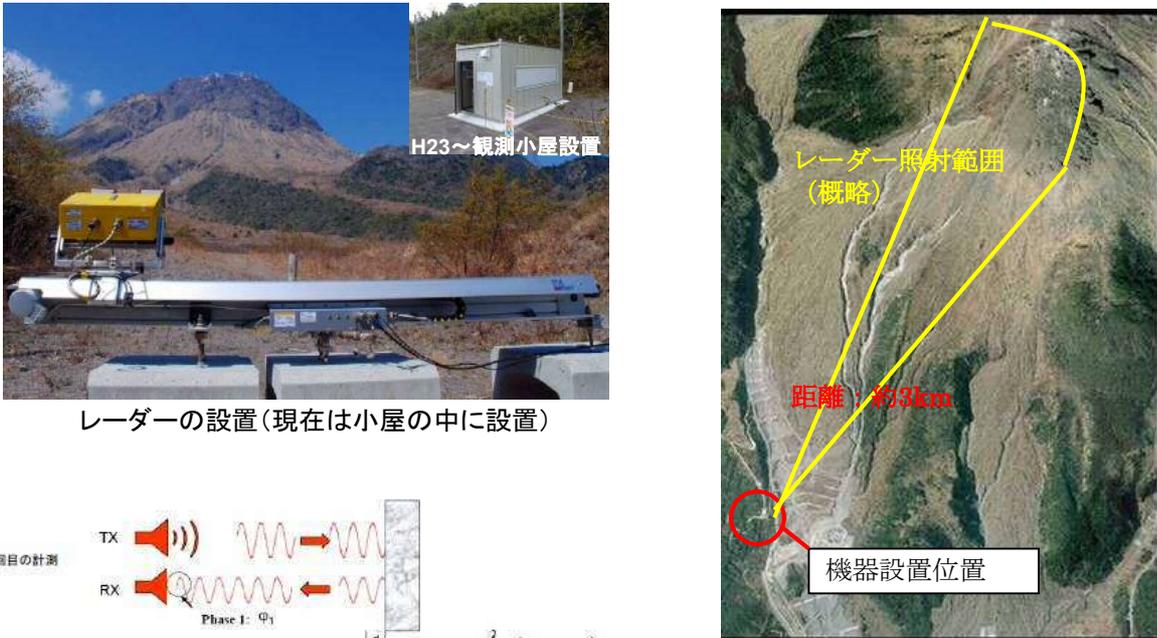
●光波測距儀による観測

測距儀から測点に設置した反射プリズムに向けて光波を発射し、反射プリズムで反射した光波を測距儀が感知するまでに発振した回数から距離を得るもの。



●地上型合成開口レーダーによる観測

送信した電波と受信した電波の位相量の変化から変位を求めるもの。
また、アンテナをレール上で移動させることにより、大きな開口面を有するアンテナの性能を持たせると同時に電波の照射方向と直交する方向の分解能を有する。



平成24年6月11日～平成24年7月11日の溶岩ドームの変位実績

○溶岩ドームの観測結果について

平成24年6月11日～平成24年7月11日の期間において、下図に示すとおり、地上型合成開口レーダーの観測結果より溶岩ドームの一部について変位速度の上昇が確認された。

上記観測期間においては、6月16日および6月24日に連続雨量200mmを超える降雨を確認（観測所：雲仙岳測候所）しており、1週間に2度連続雨量200mmを超える降雨が発生した場合は溶岩ドームの変位速度が上昇する可能性があるため、今後も注意が必要である。

